

第 159 回エイズ動向委員会
HIV 感染症に関する NDB 集計
(2022 年 8 月度)

奈良県立医科大学 公衆衛生学講座

准教授 野田 龍也

- この集計について

レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）は国民皆保険制度を有する我が国における保険診療の全数調査であり、生活保護の医療扶助や感染症法に基づく公費医療などを除く、1億2千万人の医療受療状況のデータがほぼすべて格納されている。NDBは病院だけでなく、診療所のデータも取得されており、適切な名寄せを行うことで、医療機関や都道府県をまたいだ受診を匿名のまま追跡することもできる。このようにNDBは既存の集計値にはない強み（全国悉皆性）を有するため、既存統計と補完的に用いることで精緻な実態把握が可能となる。

HIV感染症の患者数等については、拠点病院調査や感染症法の届出などに基づく集計があり、長年活用されている。本提出資料は、NDBを用いて従来調査と同様の集計を並行的に行い、従来調査を裏打ちすることを目的としている。

本提出資料は第159回エイズ動向委員会（2022年8月）提出資料について、入手可能なNDBデータの更新に合わせて集計を更新したものである。HIV感染症に関するさまざまな動向のうち、主要な3つの疫学指標（現在患者数（有病）、新規患者数（罹患）、死亡数）についてNDBによる集計を示し、解説を付した。

NDBには、患者数1～9人の数値（例：1人、8人）や、逆算により1～9人を算出できる数値（48人－40人＝8人）を公表してはならないという規制がある（たとえば、上記の下線部は公表不可）。そのため、本資料においては、表中にて「1～9」「40名程度」「非表示」といったマスキング表記を施している。その他の留意点は、表の要点及び注釈に示した。

なお、今回（第159回）提出資料は、同様の集計表を提出した第157回提出資料に比べ、名寄せの把握方法が改善された。そのため、似た集計表であっても、第157回提出資料と数値が異なることがあるが、今回のほうがより正確である。

本提出資料は、厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染症及びその併存疾患や関連医療費の実態把握のための研究」（2020年度～、代表：奈良県立医科大学・野田 龍也）の一環として作成された。集計に当たっては株式会社三菱総合研究所の技術協力を得るとともに、HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班（代表・名古屋医療センター・横幕能行）、HIV・エイズの早期治療実現に向けての研究（代表・千葉大学医学部附属病院・谷口俊文）からの助言をいただいた。

提出表一覧

- 表 1 抗 HIV 薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)(年齢階級別)
- 表 2 抗 HIV 薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)(都道府県別)
- 表 3 新規に投薬を開始された患者数(2020 年)(年齢階級別)
- 表 4 新規に投薬を開始された患者数(2020 年)(都道府県別、ルックバック期間別)
- 表 5 HIV 感染者+エイズ患者(累積患者数)
- 付属表 抗 HIV 薬一覧(マスタ)
- 付属表 2 COVID-19 患者への抗 HIV 薬投与

要点：表 1

- 表 1 抗 HIV 薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数）
（年齢階級別）

HIV/AIDS 患者数について、エイズ動向委員会では調査開始時からの累積患者数が集計されているが、受診中断や死亡による脱落が織り込まれない点が課題である。本表は、全国悉皆の受診情報である NDB の特性を活かし、「現時点において受診している患者数」（現在継続的に投薬を受けている患者数）を算出したものである。なお、同一患者が複数医療機関や複数都道府県にまたがって受診した場合の名寄せは完了済みである。

NDB による現在通院患者数の把握方法としては、下記の A,B の両方の期間に抗 HIV 薬が処方されている患者とした：

- A) 2017 年（平成 29 年）12 月 1 日～2020 年（令和 2 年）11 月 30 日の 3 年間
- B) 2020 年（令和 2 年）12 月 1 日～2021 年（令和 3 年）3 月 31 日の 4 ヶ月間

過去の一定期間（期間 A）に抗 HIV 薬が処方され、直近（期間 B）にも抗 HIV 薬の処方がある場合を対象とすることにより、最近を受診していない患者や最近になって単発で処方を受けたのみの患者を除外している。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在通院患者数であり、2020 年 12 月～2021 年 3 月の 4 ヶ月間の時点で、通院して処方を受けている HIV/AIDS 患者は、全国で 24631 人（男性 22977 人、女性 1654 人）であった。また、年齢階級別では、全体、性別ともに 45～49 歳が最多であり、その前後は逡減している。

なお、受診間隔に関する臨床的な検討を行い、最近受診の定義（期間 B）について、第 157 回提出資料以降、1 年 3 ヶ月間から 4 ヶ月間へ短縮している。

(表1) 抗HIV薬処方患者数

(現在継続的に投薬を受けている患者数) (年齢階級別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)の集計(年齢階級別)								
	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
	合計			男			女		
合計	24,631	85,244,034	28.9	22,977	38,598,603	59.5	1,654	46,645,431	3.5
0歳	0	412,559	0	0	216,396	0	0	196,163	0
1歳	0	764,684	0	0	396,052	0	0	368,632	0
2歳	0	765,092	0	0	397,684	0	0	367,408	0
3歳	1~9	775,343	1~9	1~9	403,855	1~9	1~9	371,488	1~9
4歳	1~9	780,169	1~9	1~9	407,309	1~9	0	372,860	0
5歳	0	777,063	0	0	405,531	0	0	371,532	0
6歳	0	774,670	0	0	406,069	0	0	368,601	0
7歳	1~9	722,482	1~9	1~9	379,421	1~9	0	343,061	0
8歳	1~9	720,436	1~9	0	377,828	0	1~9	342,608	1~9
9歳	1~9	708,620	1~9	1~9	373,347	1~9	0	335,273	0
10-14歳	1~9	3,410,537	1~9	1~9	1,786,979	1~9	1~9	1,623,558	1~9
15-19歳	10	3,122,467	0	1~9	1,516,892	1~9	1~9	1,605,575	1~9
20-24歳	244	3,018,069	8.1	240程度	1,272,510	19程度	1~9	1,745,559	1~9
25-29歳	1,022	3,254,973	31.4	982	1,322,054	74.3	40	1,932,919	2.1
30-34歳	2,074	3,586,370	57.8	2,010	1,481,679	135.7	64	2,104,691	3.0
35-39歳	2,916	4,097,920	71.2	2,754	1,738,992	158.4	162	2,358,928	6.9
40-44歳	3,742	4,638,825	80.7	3,502	2,042,620	171.4	240	2,596,205	9.2
45-49歳	4,710	5,625,400	83.7	4,374	2,558,828	170.9	336	3,066,572	11.0
50-54歳	3,554	5,499,673	64.6	3,288	2,556,165	128.6	266	2,943,508	9.0
55-59歳	2,406	5,343,033	45.0	2,199	2,565,348	85.7	207	2,777,685	7.5
60-64歳	1,450	5,375,957	27.0	1,331	2,610,739	51.0	119	2,765,218	4.3
65-69歳	1,086	6,226,604	17.4	1,014	2,992,318	33.9	72	3,234,286	2.2
70-74歳	856	7,976,062	10.7	789	3,731,899	21.1	67	4,244,163	1.6
75-79歳	339	6,005,224	5.6	299	2,675,090	11.2	40	3,330,134	1.2
80-84歳	159	4,958,093	3.2	141	2,077,974	6.8	18	2,880,119	0.6
85-89歳	44	3,531,348	1.2	40程度	1,285,880	3程度	1~9	2,245,468	1~9
90-94歳	10	1,754,747	0.6	1~9	502,489	1~9	1~9	1,252,258	1~9
95-99歳	0	531,413	0	0	105,738	0	0	425,675	0
100歳以上	0	86,201	0	0	10,917	0	0	75,284	0

- 「2017年12月1日～2020年11月30日」と「2020年12月1日～2021年3月31日」の両方に抗HIV薬が処方された患者
- 年齢は最後の医療保険使用時の年齢階級を使用。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表9)を使用した。
- 1~9の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 2

- 表 2 抗 HIV 薬処方患者数（現在継続的に投薬を受けている患者数）
（都道府県別）

本表は、現在継続的に投薬を受けている HIV/AIDS 患者を都道府県別に算出したものである。患者数の把握方法は表 1 と同様である。

なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」（受診地）であり、患者住所地ではない点に注意が必要である。

表における「追跡中の抗 HIV 薬処方患者」が現在継続通院患者数であり、東京都の 9708 人が最多、大阪府の 3057 人がそれに次ぐ。

(表2) 抗HIV薬処方患者数

(現在継続的に投薬を受けている患者数) (都道府県別)

	NDBを用いた抗HIV薬処方患者数(現在継続的に投薬を受けている患者数)の集計(都道府県別)								
	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数	追跡中の 抗HIV薬 処方患者	追跡中の 抗HIV薬 非処方患者	10万人 あたりの 抗HIV薬 処方患者数
	合計			男			女		
全国	24,631	85,244,034	28.9	22,977	38,598,603	59.5	1,654	46,645,431	3.5
北海道	488	3,406,302	14.3	466	1,493,935	31.2	22	1,912,367	1.2
青森県	73	848,809	8.6	70程度	370,997	20程度	1~9	477,812	1~9
岩手県	43	826,139	5.2	40程度	370,829	10程度	1~9	455,310	1~9
宮城県	213	1,560,964	13.6	196	710,846	27.6	17	850,118	2.0
秋田県	40	692,098	5.8	40程度	305,437	12程度	1~9	386,661	1~9
山形県	39	769,192	5.1	40程度	347,442	11程度	1~9	421,750	1~9
福島県	80	1,284,233	6.2	67	593,987	11.3	13	690,246	1.9
茨城県	315	1,871,522	16.8	264	871,944	30.3	51	999,578	5.1
栃木県	297	1,355,844	21.9	249	629,722	39.5	48	726,122	6.6
群馬県	218	1,352,127	16.1	188	620,245	30.3	30	731,882	4.1
埼玉県	505	4,489,692	11.2	457	2,067,781	22.1	48	2,421,911	2.0
千葉県	788	3,936,718	20.0	665	1,807,656	36.8	123	2,129,062	5.8
東京都	9,708	9,956,175	97.5	9,207	4,544,845	202.6	501	5,411,330	9.3
神奈川県	1,443	6,041,033	23.9	1,303	2,768,297	47.1	140	3,272,736	4.3
新潟県	116	1,519,548	7.6	102	689,567	14.8	14	829,981	1.7
富山県	60	718,300	8.4	60程度	324,842	17程度	1~9	393,458	1~9
石川県	120	769,015	15.6	108	346,791	31.1	12	422,224	2.8
福井県	60	527,825	11.4	50程度	240,304	22程度	1~9	287,521	1~9
山梨県	78	560,181	13.9	58	255,733	22.7	20	304,448	6.6
長野県	257	1,419,107	18.1	188	647,842	29.0	69	771,265	8.9
岐阜県	145	1,350,295	10.7	135	613,696	22	10	736,599	1.4
静岡県	393	2,522,183	15.6	350	1,163,760	30.1	43	1,358,423	3.2
愛知県	1,465	5,107,188	28.7	1,361	2,371,736	57.4	104	2,735,452	3.8
三重県	148	1,227,023	12.1	120	561,732	21.4	28	665,291	4.2
滋賀県	133	918,517	14.5	119	421,385	28.2	14	497,132	2.8
京都府	373	1,666,952	22.4	354	740,396	47.8	19	926,556	2.1
大阪府	3,057	5,851,057	52.2	2,957	2,602,130	113.6	100	3,248,927	3.1
兵庫県	662	3,696,250	17.9	629	1,635,787	38.5	33	2,060,463	1.6
奈良県	149	917,494	16.2	133	406,560	32.7	16	510,934	3.1
和歌山県	78	679,821	11.5	70程度	301,889	24程度	1~9	377,932	1~9
鳥取県	31	390,521	7.9	30程度	174,455	17程度	1~9	216,066	1~9
島根県	23	474,944	4.8	20程度	214,182	10程度	1~9	260,762	1~9
岡山県	221	1,299,890	17.0	207	585,560	35.4	14	714,330	2.0
広島県	314	1,928,159	16.3	300	875,126	34.3	14	1,053,033	1.3
山口県	88	943,237	9.3	80程度	421,115	20程度	1~9	522,122	1~9
徳島県	60	514,851	11.7	50程度	230,739	23程度	1~9	284,112	1~9
香川県	107	680,652	15.7	100程度	308,308	33程度	1~9	372,344	1~9
愛媛県	118	945,335	12.5	110程度	421,249	26程度	1~9	524,086	1~9
高知県	79	483,577	16.3	70程度	213,042	35程度	1~9	270,535	1~9
福岡県	960	3,422,476	28.0	914	1,513,676	60.4	46	1,908,800	2.4
佐賀県	48	579,449	8.3	50程度	257,064	18程度	1~9	322,385	1~9
長崎県	96	917,280	10.5	90程度	403,894	22程度	1~9	513,386	1~9
熊本県	189	1,233,995	15.3	179	547,284	33	10	686,711	1
大分県	86	796,736	10.8	90程度	356,580	24程度	1~9	440,156	1~9
宮崎県	114	765,301	14.9	110程度	339,223	33程度	1~9	426,078	1~9
鹿児島県	167	1,120,695	14.9	160程度	496,216	32程度	1~9	624,479	1~9
沖縄県	386	905,332	42.6	369	412,777	89.4	17	492,555	3.5

●都道府県は受診医療機関住所地(受診地)

●抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表9)を使用した。

●「2017年12月1日~2020年11月30日」と「2020年12月1日~2021年3月31日」の両方にレセプトが発生した患者のうち、抗HIV薬が処方された患者。

●1~9の患者数が逆算により求められないよう患者数を丸めて「程度」としている箇所がある。

要点：表 3

- 表 3 新規に投薬を開始された患者数（2020 年）（年齢階級別）

2020 年（令和 2 年）1 月～12 月の 1 年間に、新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数を示した。NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。

データベースにおける新規受診の把握は、「一定のルックバック期間（今回は 6 年 9 ヶ月間）において抗 HIV 薬の処方を受けず、集計対象期間の 1 年間（今回は 2020 年）になって抗 HIV 薬を処方された患者」とした。この定義では、過去に抗 HIV 薬の処方を受けていた患者が 6 年 9 ヶ月以上ぶりに処方を再開された場合は新規患者に誤分類されるが、その数は少ないという臨床的な前提を置いている（表 4 で検証）。なお、本集計では新規に HIV/AIDS と診断されたが抗 HIV 薬の処方を受けずに経過観察とされた患者は集計されない点に注意が必要である。

NDB で集計した新規処方開始者（新規患者）数は 1862 人であり、感染症法による届出数 1095 人に比べ、1.7 倍であった。年齢階級別の集計では、NDB 集計と感染症法届出との乖離は 1.4～2.8 倍であった。なお、NDB は感染経路や感染地域の情報を持たない。

(表3) 新規に投薬を開始された患者数

(2020年) (年齢階級別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔令和2年(2020年)1月1日～令和2年(2020年)12月31日〕 HIV感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計
感染症法	感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 〔令和2年(2020年)1月1日～令和2年(2020年)12月31日〕 HIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

診断区分				NDBによる患者数/ 感染症法の届出数
		NDBによる患者数	感染症法の届出数	
合計		1,862	1,095	1.7
感染経路	異性間の性的接触	・	153	・
	同性間の性的接触※1	・	733	・
	静注薬物使用	・	8	・
	母子感染	・	1	・
	その他※2	・	54	・
	不明	・	146	・
年齢	10歳未満	1～9	0	—
	10～19歳	1～9	10	N/A
	20～29歳	434	312	1.4
	30～39歳	591	335	1.8
	40～49歳	483	267	1.8
	50～59歳	235	122	1.9
	60～69歳	81	38	2.1
	70歳以上	31	11	2.8
	不明	0	0	—
性	男	1,736	1,040	1.7
	女	126	55	2.3
感染地域	国内	・	833	・
	海外	・	81	・
	不明	・	181	・

●年齢は最終受診時の年齢

●NDB：2020年1月～12月の1年間の新規に投薬を開始された患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計

2013年4月1日から2019年12月31日の6年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ

2020年1月1日から2020年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。

●新規に投薬を開始された患者のほか、2013年4月以前に処方があった後、長期中断後に抗HIV薬の処方を再開した者を含む。

●抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表9)を使用した。

●その他のマスキング対象箇所については「非表示」としている。

●「・」はNDBからは集計困難な項目。

※1 両性間性的接触を含む。

※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

要点：表 4

- 表 4 新規に投薬を開始された患者数（2020 年）（都道府県別、ルックバック期間別）

2020 年（令和 2 年）1 月～12 月の 1 年間に、新規に抗 HIV 薬の処方を受けた患者数を都道府県別に示した。NDB による集計値と同期間中の感染症法による届出数を併記している。なお、NDB における地域情報は「受診医療機関の住所地」（受診地）であり、患者住所地ではない。「新規処方」の定義は表 3 と同様である。

抗 HIV 薬の処方が確認されていない期間（集計上のルックバック期間）の設定による患者数の変化を確認するため、参考値としてルックバック期間を短くした場合の集計結果を†の欄に示した。

NDB で集計した新規処方開始者（新規患者）数をもっとも多かったのは東京都の 683 人であり、大阪府の 189 人が続いた。都道府県別に見ても、感染症法届出数との比率は類似の傾向が示された。

ルックバック期間を短くするほど NDB による集計数が増加しており、これは数年間を経ての再受診者の存在を示している。

(表4) 新規に投薬を開始された患者数
(2020年) (都道府県別、ルックバック期間別)

NDB	NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数(新規) 〔令和2年(2020年)1月1日～令和2年(2020年)12月31日〕 HIV感染者及びエイズ患者の性別、年齢別集計の合計値
感染症法	感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 〔令和2年(2020年)1月1日～令和2年(2020年)12月31日〕 HIV感染者及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別、年齢別、感染地域別報告数

HIV感染者+エイズ患者

ルックバック期間	感染症法の届出数 (2020年)	NDBによる患者数					
		(2020年) 6年	(2019年) 5年	(2018年) 4年	(2017年) 3年	(2016年) 2年	
合計	1095	1862	1975	2020	2214	2295	
北海道	22	40	45	46	50	54	
青森県	5	1～9	1～9	1～9	10	1～9	
岩手県	2	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
宮城県	8	14	22	10	17	22	
秋田県	2	1～9	1～9	0	1～9	1～9	
山形県	3	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
福島県	3	1～9	1～9	11	1～9	1～9	
茨城県	17	18	23	27	20	30	
栃木県	10	25	22	28	21	29	
群馬県	12	18	21	19	23	25	
埼玉県	29	46	40	39	46	48	
千葉県	36	65	80	73	87	76	
東京都	382	683	728	713	797	856	
神奈川県	65	119	126	126	144	116	
新潟県	3	10	13	11	1～9	1～9	
富山県	3	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
石川県	6	1～9	1～9	1～9	1～9	10	
福井県	2	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
山梨県	8	13	1～9	1～9	10	1～9	
長野県	10	16	19	19	23	1～9	
岐阜県	16	13	14	20	16	16	
静岡県	20	36	26	40	38	34	
愛知県	83	124	119	129	126	148	
三重県	9	13	18	17	22	22	
滋賀県	6	1～9	16	11	12	13	
京都府	14	37	30	40	32	34	
大阪府	113	189	222	245	277	295	
兵庫県	43	60	47	51	73	61	
奈良県	1	1～9	1～9	1～9	10	10	
和歌山県	2	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
鳥取県	0	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
島根県	1	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
岡山県	15	16	17	26	25	24	
広島県	12	20	23	21	24	25	
山口県	7	1～9	1～9	12	1～9	1～9	
徳島県	3	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
香川県	4	11	10	12	11	10	
愛媛県	4	1～9	1～9	1～9	1～9	14	
高知県	6	1～9	1～9	1～9	1～9	1～9	
福岡県	41	79	88	97	105	118	
佐賀県	7	1～9	10	1～9	1～9	1～9	
長崎県	1	1～9	17	1～9	1～9	11	
熊本県	7	19	18	16	23	29	
大分県	12	15	11	12	1～9	1～9	
宮崎県	5	1～9	1～9	11	15	1～9	
鹿児島県	12	18	20	17	19	18	
沖縄県	23	37	41	34	34	33	

- 都道府県は受診医療機関住所地(受診地)
- 年齢は最終受診時の年齢。
- NDB: 2020年1月～12月の1年間の新規に投薬を開始された患者及び抗HIV薬の長期中断後処方再開患者の合計
2013年4月1日から2019年12月31日の6年9ヶ月間に抗HIV薬を処方されていないかつ
2020年1月1日から2020年12月31日の1年間に抗HIV薬の処方があった患者。
- 新規に投薬を開始された患者のほか、ルックバック期間中に処方が行われず、その後、抗HIV薬の処方を再開した者を含む。
- ルックバック期間: NDB上で新規処方を把握するために設定された無処方期間。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表9)を使用した。
- †はルックバック期間が短いため、処方再開患者を一定数含んでおり、参考値。

要点：表 5

● 表 5 HIV 感染者 + エイズ患者（累積患者数）

本表は HIV/AIDS 患者の累積患者数及びその感染経路に関する集計である。表の右半分は、感染症法に基づく届出による既存集計である。

NDB による集計は、2013 年（平成 25 年）4 月 1 日～2020 年（令和 2 年）12 月 31 日の 7 年 9 ヶ月間に抗 HIV 薬の処方を受けた累積患者数である。NDB には感染経路に関する情報が収載されていないため、全体の患者数以外のほぼすべての箇所が不明（「・」）となっている。

NDB 集計による累積患者数（7 年 9 ヶ月間）は、合計で 31424 人となり、感染症法届出の累積患者数 32461 人に近い集計値であった。

(表5) HIV感染者＋エイズ患者（累積患者数）

		NDBから求めたHIV感染者・エイズ患者数情報 令和元年（2020年）12月31日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の性別患者数									感染症法に基づくHIV感染者・エイズ患者情報 令和2年（2020年）12月27日現在のHIV感染者 及びエイズ患者の国籍別、性別、感染経路別報告数の累計								
診断区分	感染経路	日本国籍			外国国籍			合計			日本国籍			外国国籍			合計		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H I V 感 染 者	合計	・	・	・	・	・	・	・	・	・	17,797	1,046	18,843	2,121	1,515	3,636	19,918	2,561	22,479
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	3,251	849	4,100	508	896	1,404	3,759	1,745	5,504
	同性間の性的接触※1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	12,679	5	12,684	994	1	995	13,673	6	13,679
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	47	2	49	31	4	35	78	6	84
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	17	10	27	8	9	17	25	19	44
	その他※2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	402	41	443	89	33	122	491	74	565
	不明	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,401	139	1,540	491	572	1,063	1,892	711	2,603
エ イ ズ 患 者	合計※3	・	・	・	・	・	・	・	・	・	8,071	433	8,504	1,040	438	1,478	9,111	871	9,982
	異性間の性的接触	・	・	・	・	・	・	・	・	・	2,394	282	2,676	328	239	567	2,722	521	3,243
	同性間の性的接触※1	・	・	・	・	・	・	・	・	・	4,018	4	4,022	228	3	231	4,246	7	4,253
	静注薬物使用	・	・	・	・	・	・	・	・	・	32	4	36	29	3	32	61	7	68
	母子感染	・	・	・	・	・	・	・	・	・	10	3	13	1	6	7	11	9	20
	その他※2	・	・	・	・	・	・	・	・	・	250	26	276	36	17	53	286	43	329
不明	・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,367	114	1,481	418	170	588	1,785	284	2,069	
HIV感染者＋エイズ患者 合計		・	・	・	・	・	・	29,111	2,313	31,424	25,868	1,479	27,347	3,161	1,953	5,114	29,029	3,432	32,461
凝固因子製剤による感染者※4		・	・	・	・	・	・	・	・	・	1,422	18	1,440	－	－	－	1,422	18	1,440

- 感染症法の太枠は、**2020年12月27日**の時点でのHIV感染者＋エイズ患者の累計。
- 2013年4月1日～2020年12月31日**にレセプトが発生し抗HIV薬が処方された患者。
- 抗HIV薬は別表の奈良医大等で作成したマスタ(表9)を使用した。
- 「・」はNDBからは集計困難な項目。

※1 両性間性的接触を含む。

※2 輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む。

※3 平成11年3月31日までの病状変化によるエイズ患者報告数154件を含む。

※4 「血液凝固異常症全国調査」による2019年5月31日現在の凝固因子製剤による感染者数

※死亡者報告数

感染症法施行後の任意報告数

(平成11年(1999年)4月1日～令和2年(2020年)12月31日) 453名

エイズ予防法※5に基づく法定報告数

(平成元年(1989年)2月17日～平成11年(1999年)3月31日) 596名

凝固因子製剤による感染者の累積死亡者数※6 726名

※5 エイズ予防法第5条に基づき、血液凝固因子製剤による感染者を除く。

※6 「血液凝固異常症全国調査」による2019年5月31日現在の報告数

付属表

- 付属表 抗 HIV 薬一覧（マスタ）

この提出資料では、HIV/AIDS 患者の定義として、「抗 HIV 薬の処方を受けている患者」を採用した。一般的には抗 HIV 薬は HIV 感染症以外には使用されないと考えられており、また、抗 HIV 薬を処方して診療報酬請求を行わない例があるとも考えにくいためである。ただし、HIV と診断されつつ抗 HIV 薬の処方を受けていない患者が、今回の NDB 集計から除外されている点は留意が必要である。

なお、2020 年 1 月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して抗 HIV 薬であるロピナビル／リトナビル配合剤（カレトラ）、ネルフィナビルメシル酸塩（ビラセプト）が処方された影響で、この期間の HIV/AIDS 患者数が一時的に変化していることが予想された。研究班では、本件についての検討を進め、今回の集計値はすべて、COVID-19 への抗 HIV 薬処方例を除外した集計としている。 COVID-19 への抗 HIV 薬処方例は表 10 に示した。

付属表 抗HIV薬一覧（マスタ）

医薬品コード	HIV薬名称	略名	一般名	作用機序	1錠あたりの含量	配合剤
620005140	レトロビルカプセル100mg	AZT(ZDV)	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
610443081	ヴァイデックスECカプセル125 125mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	125	0
610443082	ヴァイデックスECカプセル200 200mg	ddL	ジダノシン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620000425	エビビル錠150 150mg	3TC_150mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	0
620000426	エビビル錠300 300mg	3TC_300mg	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
610412192	ゼリットカプセル15 15mg	d4T	サニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	15	0
610412193	ゼリットカプセル20 20mg	d4T	サニルブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	20	0
621144201	コンビル配合錠	COM	ジドブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621144201	コンビル配合錠	COM	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	150	1
620004998	ザリアジェン錠300mg	ABC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
620001903	ビリアード錠300mg	TDF	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	0
621657001	エブジコム配合錠	EZC	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
621657001	エブジコム配合錠	EZC	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620002488	エムトリバカプセル200mg	FTC	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
621662301	ツルバダ配合錠	TVD	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
610421341	ピラミューン錠200 200mg	NVP	ネビラビン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620006943	ストックリン錠600mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	600	0
621932401	ストックリン錠200mg	EFV	エファビレンツ	非核酸系逆転写酵素阻害剤	200	0
620009086	インテレンス錠100mg	ETR	エトラピリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	100	0
622149101	エジュラント錠25mg	RPV	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	0
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	リルビリン	非核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622388001	コムブレラ配合錠	CMP	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620004975	クリキシバンカプセル200mg	IDV	硫酸インジナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620003516	インビラーゼカプセル200mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620004347	インビラーゼ錠500mg	SQV	メシル酸サキナビル	プロテアーゼ阻害薬	500	0
621143701	ビラセプト錠250mg	NFV	メシル酸ネルフィナビル	プロテアーゼ阻害薬	250	0
621143601	ノービア内用液8% 80mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	80	0
622054801	ノービア錠100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	ロビナビル	プロテアーゼ阻害薬	80mg/mL	1
621384201	カレトラ配合内用液	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	20mg/mL	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	ロビナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	1
621765701	カレトラ配合錠	LPV/r	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	5	1
620000454	レイアタツカプセル150mg		硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	150	0
620000455	レイアタツカプセル200mg	ATV	硫酸アタザナビル	プロテアーゼ阻害薬	200	0
620002465	レクシヴァ錠700 700mg	FPV	ホスアンブレナビルカルシウム水和物	プロテアーゼ阻害薬	700	0
620005884	ブリジスタ錠300mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	300	0
622276701	ブリジスタナイーブ錠800mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	0
622403501	ブリジスタ錠600mg	DRV	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	600	0
620007815	アイセントレス錠400mg	RAL	ラルテグラビルカリウム	インテグラーゼ阻害薬	400	0
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622235801	スタリビルド配合錠	STB	フマル酸テノホビルジソプロキシル	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
622336201	テビケイ錠50mg	DTG	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	0
622408801	トリメク配合錠	TRI	ドルテグラビルナトリウム	インテグラーゼ阻害薬	50	
622408801	トリメク配合錠	TRI	アバカビル	核酸系逆転写酵素阻害剤	600	1
622408801	トリメク配合錠	TRI	ラミブジン	核酸系逆転写酵素阻害剤	300	1
620009087	シーエルセントリ錠150mg	MVC	マラビロク	CCR5阻害薬	150	0
621930301	ブリジスタナイーブ錠400mg	DRVN	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	400	0
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
622522601	デシコビ配合錠LT	DVY-LT	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	25	1
622522501	デシコビ配合錠HT	DVY-HT	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	ダルナビル	プロテアーゼ阻害薬	800	1
622532301	プレジコビックス配合錠	PCX	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	コピシスタット	CYP3A阻害薬	150	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	エムトリシタピン	核酸系逆転写酵素阻害剤	200	1
622507701	ゲンボイヤ配合錠	GEN	フマル酸テノホビルアラフェナミド	核酸系逆転写酵素阻害剤	10	1
610409330	ハイビッド錠0.375	ddC	ザルシタピン	2008年3月販売中止	0.375	0
610432038	ノービア・ソフトカプセル100mg	RTV	リトナビル	プロテアーゼ阻害薬	100	0
622626001	アイセントレス錠600mg	RAL	ラルテグラビル	インテグラーゼ阻害薬	600	0
622647301	オデファシ配合錠	RPV/TAF/TC	リルビリン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩/エムトリシタピン配合剤	NNRTI/NRTI配合剤	25mg/25mg/200mg	1
622660701	ジャルカ配合錠	DTG/RPV	ドルテグラビル/リルビリン配合剤	INSTI/NNRTI	50mg/25mg	1
622702901	ドウバイト配合錠		ドルテグラビルナトリウム/ラミブジン	インテグラーゼ阻害薬/核酸系逆転写酵素阻害剤	50mg/300mg	1
622660501	ビクタル配合錠	BIC/TAF/FTC	ビクテグラビル/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩/エムトリシタピン配合剤	INSTI/NRTI配合剤	50mg/25mg/200mg	1
622702801	ピフェルトロ錠100mg		ドラビリン	NNRTI	100mg	0
622699101	ラバミコム配合錠「アメル」		ラミブジン/アバカビル硫酸塩	核酸系逆転写酵素阻害剤/核酸系逆転写酵素阻害剤	300mg/600mg	1
622683501	シムツァ配合錠		ダルナビル エタノール付加物/コピシスタット/エムトリシタピン/テノホビルアラフェナミドフマル酸塩配合錠	プロテアーゼ阻害薬/CYP3A阻害薬/核酸系逆転写酵素阻害剤/核酸系逆転写酵素阻害剤	800mg/150mg/200mg/10mg	1

●上記の薬剤を1回以上処方された患者をHIV感染症患者として集計した。

付属表 2

● 付属表 2 COVID-19 患者への抗 HIV 薬投与

2020 年 1 月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、抗 HIV 薬であるロピナビル／リトナビル配合剤（カレトラ）、ネルフィナビルメシル酸塩（ビラセプト）が処方された時期があった。

2019 年 12 月までに抗 HIV 薬が一度も処方されていない患者で、2020 年 1 月以降にカレトラまたはビラセプトが単剤で処方された患者は、COVID-19 の患者に対して抗 HIV 薬が緊急的に処方された症例である可能性が高いと考えられる（2020 年 1 月以降に抗 HIV 薬による治療が新規に必要な HIV 感染者が、カレトラまたはビラセプトの単剤で治療開始される可能性はきわめて低い）。表 10 は、COVID-19 患者への抗 HIV 薬投与と思われる患者数を集計したものである。

COVID-19 患者への抗 HIV 薬投与と思われる患者数は、2020 年 1 月は 1～9 名であったが、同年 2 月は 65 名、同年 3 月に 106 名でピークを迎え、同年 5 月以降はほとんど処方されなくなっている。

なお、今回エイズ動向委員会の集計では、これらの患者を除外して集計している。

付属表2 COVID-19患者への抗HIV薬投与

年月	被処方者数	COVID-19陽性者数
202001	1~9	12
202002	65	193
202003	106	1930
202004	47	12089
202005	1~9	2511
202006	0	1747
202007	0	17373
202008	1~9	31981
202009	1~9	15045
202010	0	17529
202011	0	47158
202012	0	86541
202101	1~9	154700
202102	0	41838
202103	1~9	42300